



# Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (Sun Java System App Server Plug-In 3.0)



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-6502-10  
2006年4月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、および Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System User's Guide for Sun Java System App Server Plug-In 3.0

Part No: 819-5459-10

# 目次

---

はじめに .....	7
<b>1 Sun Java System App Server プラグインの概要 .....</b>	<b>11</b>
Sun Java System App Server プラグインの目的 .....	11
Sun Java System App Server プラグインに含まれるもの .....	11
Sun Java System App Server プラグインを使用するための要件 .....	12
<b>2 Sun Java System App Server プラグインのリリースノート .....</b>	<b>13</b>
インストール上の問題 .....	13
実行時の問題 .....	13
1つのドメインに複数のクラスタを作成しているとき、ロードバランサの構成ファイルが正しく更新されない (6233520) .....	13
クラスタを削除するとき、ロードバランサの構成エントリが削除されない (6233521) .....	14
クラスタまたはサーバーインスタンスの JDBC リソースまたは JMS リソースを表示すると、ドメインのすべてのリソースが表示される (6235760) .....	14
createSamplesDomain を true に設定しても、サンプルドメインが作成されない (6239618) .....	14
N1 Service Provisioning System が、デフォルトドメイン domain1 のインストール時に指定された変数の一部を使用しない(6400633) .....	14
アプリケーションサーバーのアンインストール時に対象ホストからアプリケーションが完全に削除されない (6369545) .....	15
<b>3 Sun Java System App Server プラグインのインストールと構成 .....</b>	<b>17</b>
Sun Java System Application Server プラグインの入手 .....	17
Solaris への Sun Java System Application Server プラグインの追加 .....	18
▼ Solaris 用の Sun Java System App Server プラグインを追加する .....	18
Linux への Sun Java System Application Server プラグインの追加 .....	18
▼ Linux 用の Sun Java System App Server プラグインを追加する .....	18

Windows への Sun Java System Application Server プラグインの追加 .....	19
▼ Windows 用の Sun Java System App Server プラグインを追加する .....	19
Sun N1 Service Provisioning System への Sun Java System Application Server プラグインのインポート .....	19
▼ ブラウザインタフェースを使用して Sun Java System App Server プラグインをインポートする .....	19
▼ CLI を使用して Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 をインポートする .....	20
▼ Sun Java System App Server プラグインにパッチを適用する .....	20
アップグレード関連の注意事項 .....	21
▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする .....	21
<b>4 Sun Java System App Server プラグインの使用方法 .....</b>	<b>23</b>
Sun N1 Service Provisioning System による Sun Java System App Server 環境のインストールと使用方法 .....	23
プラグインの規定 .....	23
全体的な前提条件 .....	24
プロセスの概要 .....	24
Sun Java System App Server ドメインインフラストラクチャーの作成 .....	24
▼ Sun Java System App Server ソフトウェアをインストールする .....	25
▼ Sun Java System App Server Domain 管理サーバーを作成する .....	28
▼ Sun Java System App Server インスタンスを作成する .....	31
▼ Sun Java System App Server クラスタを作成する .....	33
▼ Sun Java System App Server ソフトウェアをアンインストールする .....	36
Sun Java System App Server インスタンスとクラスタの管理 .....	36
Sun Java System App Server ドメインと Domain 管理サーバーの管理 .....	36
▼ Sun Java System App Server ドメインと Domain 管理サーバーを削除する .....	37
▼ 完全なドメインを起動する .....	38
▼ 完全なドメインを停止する .....	38
▼ Domain 管理サーバーを起動する .....	39
▼ Domain 管理サーバーを停止する .....	39
▼ Domain 管理サーバーが動作していることを確認する .....	40
Sun Java System App Server クラスタの管理 .....	40
▼ Sun Java System App Server クラスタを削除する .....	41
▼ Sun Java System App Server クラスタを起動する .....	42
▼ Sun Java System App Server クラスタを停止する .....	42
▼ Sun Java System App Server クラスタが動作していることを確認する .....	43
Sun Java System App Server インスタンスの管理 .....	43

▼ Sun Java System App Server インスタンスを削除する .....	44
▼ Sun Java System App Server インスタンスを起動する .....	44
▼ Sun Java System App Server インスタンスを停止する .....	45
▼ Sun Java System App Server インスタンスが動作していることを確認する .....	45
Sun Java System App Server アプリケーションの取得と管理 .....	46
▼ Sun Java System App Server エンタープライズアプリケーションを取得する .....	46
▼ Sun Java System App Server Web アプリケーションを取得する .....	47
Sun Java System App Server エンタープライズアプリケーションの管理 .....	48
▼ Sun Java System App Server Enterprise Application をインストールする .....	48
▼ Sun Java System App Server Enterprise Application をアンインストールする .....	49
Sun Java System App Server Web アプリケーションの管理 .....	50
▼ Sun Java System App Server Web Application をインストールする .....	50
▼ Sun Java System App Server Web Application をアンインストールする .....	51
Sun Java System App Server リソースの管理 .....	52
Java Messaging Service (JMS) リソースの管理 .....	52
▼ JMS リソースをホストにインストールする .....	52
▼ JMS リソースを作成する .....	53
▼ JMS リソースを削除する .....	54
Java Database Connectivity (JDBC) リソースの管理 .....	55
▼ JDBC リソースをホストにインストールする .....	55
▼ JDBC リソースを作成する .....	56
▼ JDBC リソースを削除する .....	57
▼ JDBC リソースを一覧表示する .....	57
▼ JDBC 接続プールを作成する .....	58
▼ JDBC 接続プールを削除する .....	59
▼ JDBC 接続プールを一覧表示する .....	59
スレッドプールリソースの管理 .....	60
▼ スレッドプールリソースをホストにインストールする .....	60
▼ スレッドプールリソースを作成する .....	61
▼ スレッドプールリソースを削除する .....	62
▼ ターゲット上のスレッドプールを一覧表示する .....	62
障害追跡 .....	63
タスクの実行時にエラーが発生した場合 .....	63
索引 .....	65



# はじめに

---

このマニュアルでは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアを使用して、Sun Java System App Server アプリケーションとファイルを取得して配備する方法について説明します。

## 対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、Sun Java System App Server の機能を Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに組み込もうとしているシステム管理者および Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアのオペレータです。このようなユーザーは、次のことに精通している必要があります。

- Sun N1 Service Provisioning System 製品
- UNIX® の標準コマンドとユーティリティー
- Sun Java System App Server 製品の一般的な概念と管理機能

## お読みになる前に

まだ Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに精通していないユーザーは、次のマニュアルをお読みください。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 リリースノート』

## マニュアルの構成

第1章では、このプラグインソリューションの概要を説明します。

第2章では、インストールや実行時の問題について説明します。

第3章では、このプラグインをインストールして構成する方法について説明します。

第4章では、このプラグインを通じて、アプリケーションとファイルを取得して配備する方法、およびこのプラグインによって提供される特定のコンポーネントタイプについて説明します。

## Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで参照している Sun 以外の URL は、追加の関連情報を提供します。

---

注 - このマニュアル内で引用する Sun 以外の Web サイトの可用性については、Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<b>AaBbCc123</b>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。  machine_name% you have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su  Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名称または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm filename と入力します。



表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> '^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。



# Sun Java System App Server プラグインの概要

---

この章では、Sun N1 Service Provisioning System を使用して、Sun Java System App Server アプリケーションをプロビジョニングする一般的な方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 11 ページの「Sun Java System App Server プラグインの目的」
- 11 ページの「Sun Java System App Server プラグインに含まれるもの」
- 12 ページの「Sun Java System App Server プラグインを使用するための要件」

## Sun Java System App Server プラグインの目的

Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアは、Sun Java System App Server アプリケーションをサポートするための拡張機能を提供します。Application Server アプリケーションを参照サーバーから取得して、このアプリケーションの正確な構成方法を選択し、スタンドアロン、管理、またはクラスタ化された Application Server 環境に配備できます。

Application Server を手動でインストールして配備する代わりに、プロビジョニングシステムを使用すると、次のような利点があります。

- インストールと配備は、複数のホストに対してスケジューリングできます。
- すべてのアプリケーションおよび管理対象サーバーで、システムが行なったすべてのアクションのログを詳細に記録して報告できます。これらのログは完全な監査履歴であり、すべてのホストに行われたすべての変更が記録されます。

## Sun Java System App Server プラグインに含まれるもの

Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 には、Sun Java System App Server アプリケーションを簡単に取得、構成、および配備するための、Sun Java System App Server に特有なコンポーネントがいくつか含まれます。

## Sun Java System App Server プラグインを使用するための要件

Sun Java System App Server プラグインを配備するホストは、次の要件に適合する必要があります。

オペレーティングシステム Sun Java System App Server プラグインは、次のオペレーティングシステムで動作します。

- Solaris 8 (SPARC 版)
- Solaris 9 (SPARC 版)
- Solaris 10 (SPARC 版)
- Solaris 9 (x86 版)
- Solaris 10 (x86 版)
- Redhat Enterprise Linux 2.1 Update 2
- Redhat Enterprise Linux 3.0 Update 1

ディスク容量 Solaris の場合、最小で 250M バイトの空きディスク容量が必要です (500M バイトを推奨)。Redhat Enterprise Linux の場合、最小で 220M バイトの空きディスク容量が必要です (300M バイトを推奨)。

RAM 最小 512M バイト、推奨 1G バイト

Java 実行環境 J2SE 1.4.2\_06 または J2SE 5.0

Sun Java System App Server Sun Java System App Server 8.1 2005Q1 または 2005Q2 の製品およびスタンドアロンのインストーラファイル

Web サーバー サポートされている Web サーバーについては、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q1 リリースノート』の「Web Servers」、または『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q2 リリースノート』の「Web Servers」を参照してください。

# Sun Java System App Server プラグインのリリースノート

---

この章では、Sun Java System App Server プラグインの最新情報、および既知の問題について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 13 ページの「インストール上の問題」
- 13 ページの「実行時の問題」

## インストール上の問題

プラグインを使用した Sun Java System App Server のインストールの際に発生することが判明している問題点はありません。

## 実行時の問題

次に、Sun Java System App Server プラグインを実行するときに発生することが判明している問題を示します。

### 1つのドメインに複数のクラスタを作成しているとき、ロードバランサの構成ファイルが正しく更新されない (6233520)

クラスタの起動時に、ロードバランサの構成ファイル `loadbalancer.xml` が更新されます。負荷均衡用に1つ以上のクラスタが構成されている場合には、最後に起動したクラスタがロードバランサの対象クラスタになります。

## クラスタを削除するとき、ロードバランサの構成エントリが削除されない (6233521)

ロードバランサを使用するドメインでクラスタを削除する場合は、ロードバランサの構成ファイル `loadbalancer.xml` にあるそのクラスタのエントリは削除されません。クラスタが削除されると、クラスタのエントリが `loadbalancer.xml` ファイルに残っていても、エントリは使用されません。

## クラスタまたはサーバーインスタンスの JDBC リソースまたは JMS リソースを表示すると、ドメインのすべてのリソースが表示される (6235760)

指定したターゲット (クラスタまたはサーバーインスタンス名) への `listJMSResources` または `listJDBCResources` タスクの出力には、そのクラスタまたはサーバーインスタンスが動作しているドメインのすべてのリソースが表示されます。

## `createSamplesDomain` を **true** に設定しても、サンプルドメインが作成されない (6239618)

Sun Java System App Server 8.1 の `installHost` の変数を設定する場合に、`createSamplesDomain` を `true` に設定しても、実際のサンプルドメインは作成されません。

## N1 Service Provisioning System が、デフォルトドメイン `domain1` のインストール時に指定された変数の一部を使用しない (6400633)

Sun Java System App Server のインストール中に、Sun Java System App Server `domain1` が作成されますが、デフォルトドメイン `domain1` 用に作成されるコンポーネントはありません。ユーザーが、`domain1` を作成して、Sun Java System App Server Install コンポーネントから入力したものと異なるポート番号を使用しようとする場合、`domain1` はすでに作成されているために、このポート番号が使用できません。DAS コンポーネントが正常にインストールされた場合でも、使用される変数は Sun Java System App Server Install コンポーネントによるものです。

回避策:

1. DAS コンポーネントにドメインを作成する場合は、`domain1` を使用しないようユーザーに要求します。

2. または、DAS コンポーネントを使用して `domain1` を作成する場合には、Sun Java System App Server Install コンポーネントで指定したものと同一ポート番号を使用します。

## アプリケーションサーバーのアンインストール時 に対象ホストからアプリケーションが完全に削除 されない (6369545)

クラスタ、管理対象サーバー、またはドメインを削除するときに、Sun N1 Service Provisioning System データベースからアプリケーションが削除されません。

回避策:

クラスタ、管理対象サーバー、またはドメインを削除する前に、配備されているアプリケーションコンポーネントが、Sun N1 Service Provisioning System データベースから削除されていることを確認します。





# Sun Java System App Server プラグインのインストールと構成

---

この章では、Sun Java System App Server プラグインをインストールして構成する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 17 ページの「Sun Java System Application Server プラグインの入手」
- 19 ページの「Sun N1 Service Provisioning System への Sun Java System Application Server プラグインのインポート」
- 21 ページの「アップグレード関連の注意事項」

## Sun Java System Application Server プラグインの入手

Sun Java System App Server プラグインは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに対するプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは、Java™ アーカイブ (JAR) ファイルとしてパッケージ化されています。Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 用のプラグインファイルは、Sun N1 Service Provisioning System 5.2 DVD または Sun Download Center から入手できます。

Sun Java System App Server プラグインを入手する手順は2段階に分かれます。はじめに Sun N1 Service Provisioning System コンテナプラグイン JAR ファイルが含まれたパッケージ ファイルをシステムに追加する必要があります。そのあとに Sun N1 Service Provisioning System コンテナプラグイン JAR ファイルをマスターサーバーにインポートします。

パッケージファイルをシステムに追加すると、Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 は2種類の JAR ファイルからインポートできます。状況に応じて、適切なファイルを選択してください。

- Sun Java System App Server プラグインをはじめてインポートする場合は、`com.sun.sjsas81_3.0.jar` ファイルを使用します。
  - 旧バージョンの Sun Java System App Server プラグインがすでにインポートされている場合は、`com.sun.sjsas81_2.0_3.0.jar` ファイルを使用します。
1. 適切な OS (Solaris、Linux、または Windows) 用の JAR ファイルを含むファイルを追加します。

- 18 ページの「Solaris への Sun Java System Application Server プラグインの追加」
  - 18 ページの「Linux への Sun Java System Application Server プラグインの追加」
  - 19 ページの「Windows への Sun Java System Application Server プラグインの追加」
2. JAR ファイルを Sun N1 Service Provisioning System にインポートします。19 ページの「Sun N1 Service Provisioning System への Sun Java System Application Server プラグインのインポート」を参照

## Solaris への Sun Java System Application Server プラグインの追加

Solaris 用の Sun Java System App Server プラグインは、SUNWspssas パッケージに含まれています。

### ▼ Solaris 用の Sun Java System App Server プラグインを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 プラグインパッケージを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# pkgadd -d . SUNWspssas
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.sjsas81/ ディレクトリにあります。アップグレード用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.sjsas81/Upgrade ディレクトリにあります。

## Linux への Sun Java System Application Server プラグインの追加

Linux 用の Sun Java System App Server プラグインは、sun-spssas-3.0-1.noarch.rpm ファイルに含まれています。

### ▼ Linux 用の Sun Java System App Server プラグインを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 sun-spssas-3.0-1.noarch.rpm ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# rpm -i package_directory/sun-spssas-3.0-1.noarch
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは  
/opt/sun/N1\_Service\_Provisioning\_System/plugins/com.sun.sjsas81 ディレクトリにあります。  
アップグレード用 JAR ファイルは  
/opt/sun/N1\_Service\_Provisioning\_System/plugins/com.sun.sjsas81/Upgrade ディレクトリにあります。

## Windows への Sun Java System Application Server プラグインの追加

Microsoft Windows 用の Sun Java System App Server プラグインは、sun-spssas-3.0.msi ファイルに含まれています。

### ▼ Windows 用の Sun Java System App Server プラグインを追加する

- 1 sun-spssas-3.0.msi ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 2 sun-spssas-3.0.msi ファイルをダブルクリックします。  
インストーラの GUI が起動されます。JAR ファイルは、C:\Program Files\N1 Service Provisioning System\plugins\com.sun.sjsas81 ディレクトリにコピーされます。アップグレード用 JAR ファイルは、C:\Program Files\N1 Service Provisioning System\plugins\com.sun.sjsas81\Upgrade ディレクトリにあります。

## Sun N1 Service Provisioning System への Sun Java System Application Server プラグインのインポート

ある特定のプラグインを Sun N1 Service Provisioning System に認識させるには、そのプラグインをマスターサーバーにインポートする必要があります。旧バージョンの Sun Java System App Server プラグインがすでにインポートされている場合は、新しいプラグインにアップグレードする必要があります。

### ▼ ブラウザインタフェースを使用して Sun Java System App Server プラグインをインポートする

プラグインをインポートまたはアップグレードするには、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で詳しく説明されている手順に従います。

- 1 ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。

- 2 「Plug-ins」ページの「Action」列で、「Import」をクリックします。
- 3 JAR ファイルをダウンロードした場所に移動します。
  - Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 をはじめてインポートする場合は、`com.sun.sjsas81_3.0.jar` ファイルを選択します。
  - 旧バージョンの Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 がすでにインポートされている場合は、`com.sun.sjsas81_2.0_3.0.jar` ファイルを選択します。
- 4 「Continue to Import」ボタンをクリックします。

インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが開いて、そのプラグインが提供するオブジェクトが表示されます。

## ▼ CLI を使用して Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 をインポートする

コマンド行を使用して、プラグインをインポートすることもできます。

- ▶ CLI からプラグインファイルをインポートするには、次のように入力します。

```
% cr_cli -cmd plg.d.add -path plugin-filename -u username -p password
```

  - Sun Java System App Server プラグインをはじめてインポートする場合は、`plugin-filename` は `com.sun.sjsas81_3.0.jar` になります。
  - 旧バージョンの Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 がすでにインポートされている場合は、`plugin-filename` は `com.sun.sjsas81_2.0_3.0.jar` になります。

## ▼ Sun Java System App Server プラグインにパッチを適用する

- 1 **Support** (<http://www.sun.com/support/>) サイトで、Sun Java System App Server プラグイン用に提供されているパッチがないかどうかを調べます。
- 2 パッチを適用する場合は、そのパッチの README ファイルに記載されている手順に従います。

## アップグレード関連の注意事項

ここでは、アップグレード後の旧バージョンのコンポーネントの表示に関する情報を示します。

影響を受ける可能性のあるコンポーネントは次のとおりです。

- クラスタ
- ドメイン
- JDBC リソース
- JMS リソース
- 管理対象サーバーインスタンス
- スレッドプールリソース

### ▼ 旧バージョンのコンポーネントにアクセスする

新しいバージョンのプラグインにアップグレードすると、そのプラグインの「Common Tasks」ページが更新され、新しいバージョンのプラグインを使用してインストールされたコンポーネントへのリンクが表示されます。この機能により、最新の機能と改善点を含むコンポーネントを簡単に表示できます。古い機能に依存するコンポーネントは、「Common Tasks」ページからはリンクされません。

以前にインストールしたコンポーネントが見つからない場合、そのコンポーネントは旧バージョンのプラグインから作成された可能性があります。

旧バージョンのコンポーネントを表示または使用するには、次の手順に従います。

- 1 「**Common Tasks**」ページで、適切なコンポーネントプロシージャををクリックします。「**Component Detail**」ページが表示されます。
- 2 「**Component Details**」ページで「**Version History**」をクリックします。コンポーネントとバージョンのリストが表示されます。
- 3 適切なリンクをクリックします。
  - a. コンポーネントの機能を実行するには、そのバージョン番号をクリックするか、使用するコンポーネントに適用される詳細リンクをクリックします。
  - b. コンポーネントがインストールされている場所を知るには、「**Where Installed**」をクリックします。



# Sun Java System App Server プラグインの 用法

---

Sun Java System App Server プラグインは、特定のコンポーネントタイプを豊富に備えています。また、このプラグインを使用して、Sun Java System App Server アプリケーションを使用するための機能に簡単にアクセスできます。この章では、次の内容について説明します。

- 23 ページの「Sun N1 Service Provisioning System による Sun Java System App Server 環境のインストールと使用方法」
- 24 ページの「Sun Java System App Server ドメインインフラストラクチャーの作成」
- 63 ページの「障害追跡」

## Sun N1 Service Provisioning System による Sun Java System App Server 環境のインストールと使用方法

Application Server インスタンスとクラスタを作成して管理するには、まず、「Sun Java System App Server Common Tasks」ページを使用します。

### プラグインの規定

プロビジョニングシステムを使用すると、アプリケーションをプロビジョニングおよび管理できます。

### プランとコンポーネントプロシージャ

Sun Java System App Server プラグインは、タスクを実行するためのツールとして、プランとコンポーネントプロシージャの両方を提供します。プランを使用することによって、使用する機能に直接リンクできます。コンポーネントプロシージャを使用することによって、実行できるタスクの数が大幅に増えます。

## 全体的な前提条件

この節では、Sun Java System App Server プラグインを使用するための要件について説明します。

Web サーバーインスタンスの所有者は、Sun Java System App Server をインストールするユーザーと同じになっている必要があります。そうになっていない場合、ロードバランサのファイルはインストールされないか、正しく作成されません。

---

注-複数のマシンにまたがるクラスタが関連しているトポロジを構成する場合は、ディストリビューション (マスターサーバーとリモートエージェント) を所有するユーザーと、マスターサーバーとリモートエージェントを実行するユーザーは同じであるようにしてください。

---

## プロセスの概要

Sun Java System App Server 環境をプロビジョニングシステム内で作成するプロセスは、この環境をプロビジョニングシステムなしで作成するプロセスに似ています。

1. Application Server プラグインをインポートします。
2. Application Server セッション変数を設定します。
3. すべてのホストを準備します。
4. Application Server Domain 管理サーバーを作成します。
5. (任意) Application Server クラスタを作成します。
6. そのクラスタまたはドメインの一部としてサーバーインスタンスを作成します。
7. (任意) アプリケーションで使用する追加リソースを作成します。
8. (任意) JMS サーバーを構成します。
9. アプリケーションファイル (EAR と WAR) を取得します。
10. ターゲットのインスタンスまたはクラスタにアプリケーションを配備します。

## Sun Java System App Server ドメインインフラストラクチャーの作成

この節では、Sun Java System App Server プラグインによって提供される機能を活用できるように、Sun N1 Service Provisioning System インストールを準備する方法について説明します。

Sun Java System App Server 8.1 Install Management のコンポーネントプロシージャーを、次に示します。

`install: default`

ターゲットホストに Sun Java System App Server をインストールし、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。



uninstall: default	markOnly と同様に、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
uninstall: uninstallAppServer	ターゲットホストから Sun Java System App Server をアンインストールし、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。

## ▼ Sun Java System App Server ソフトウェアをインストールする

- 1 左側のコントロールパネルの「Common Tasks」セクションの下にある **AppServer 8.1** アイコンを選択します。
- 2 「SJSAS 8.1 Install Management: Install or Uninstall」リンクをクリックします。
- 3 「install: default」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」領域で、配備する **Install** コンポーネントの変数設定を選択します。

Install コンポーネントは Sun Java System App Server をリモートエージェントにインストールします。Install コンポーネントをインストールしたあと、このコンポーネントをもう一度インストールし直す必要はありません。

新しいドメインまたはサーバーインスタンスをインストールするプランを実行するとき、プロビジョニングシステムは、Install コンポーネントが installPath ディレクトリに存在するかどうかをチェックします。Install コンポーネントがすでにインストールされている場合、プロビジョニングシステムは Install コンポーネントをインストールし直しません。

- 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
- メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。

次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installDirectory	必須。Sun Java System App Server ソフトウェアをインストールする場所。

sourceImage	<p>必須。Sun Java System App Server パッケージインストールの場所。</p> <p>通常は、抽出した Sun Java System App Server インストールが格納されている NFS マウントのディレクトリです。たとえば (sourceImage バイナリが /net/mymachine/nfs ディレクトリにダウンロードされたものと仮定)、sourceImage の値が /net/mymachine/nfs/sjsappserver8.1 の場合、Sun Java System App Server ソフトウェアをインストールする前に、次の作業を実行します。</p> <pre># mkdir /net/mymachine/nfs/sjsappserver8.1  # cd /net/mymachine/nfs/sjsappserver8.1  # unzip ../sjsas_ee-8_1_01_2005Q1-solaris-sparc.bin</pre> <p>バイナリを圧縮解除すると、setup という名前のファイルが現れます。chmod 755 setup を使用して、ファイルの実行権限を有効にしてください。&lt;sourceImage&gt;/package/jre/bin/java ディレクトリ内のほかのファイルに対しても、実行権限が有効である必要があります。</p>
installId	<p>必須。ドメイン、クラスタ、ノードエージェント、および Application Server インスタンスを Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。複数のホストにインストールする場合は、installId を :[target:sys.hostName] に設定します。</p>
adminUserId	<p>ドメインまたはクラスタの管理者のユーザー名。</p> <p>通常は、セッション変数から取得されます。</p>
adminPassword	<p>ドメインまたはクラスタの管理者ログイン用のパスワード。</p> <p>通常は、セッション変数から取得されます。</p>
httpLoadBalancerPluginType	<p>ドメインまたはクラスタで Web サーバーのロードバランサを使用している場合、ここに Web サーバーのタイプを入力します。有効なエントリは、「Sun ONE Web Server」または「Apache HTTP Server」です。</p> <p>この Web サーバーはすでにターゲットホストにインストールされている必要があります。</p>

<code>webserviceInstallDirectory</code>	Web サーバーの場所。ロードバランサプラグインをインストールするときに使用されます。Sun ONE Web Server の場合、インスタンスディレクトリを入力します。Apache HTTP Server の場合、インストールディレクトリを入力します。
<code>webserviceConfigDirectory</code>	ロードバランサ構成ファイル <code>loadbalancer.xml</code> を格納するディレクトリ。  この変数を設定するのは、ロードバランサプラグインがすでに Web サーバーゲートウェイホストにインストールされている場合だけです。
<code>adminPasswordEncryptedFlag</code>	<code>true</code> に設定した場合、管理者のパスワードは暗号化されます。デフォルトは <code>false</code> です。
<code>asadminPort</code>	Application Server ドメイン管理サーバーが待機するポート。デフォルトは、4849 です。ポートは、デフォルトのドメイン <code>domain1</code> の作成に使用されます。
<code>adminWebPort</code>	配備された Web アプリケーションが動作するポート。デフォルトは、8090 です。ポートは、デフォルトのドメイン <code>domain1</code> の作成に使用されます。
<code>instanceHTTPSPort</code>	セキュア HTTP (HTTPS) アプリケーションが動作するポート。デフォルトは、1043 です。ポートは、デフォルトのドメイン <code>domain1</code> の作成に使用されます。
<code>createSamplesDomain</code>	<code>true</code> の場合、Application Server サンプルアプリケーションを持つドメインがインスタンスにインストールされます。デフォルトは <code>false</code> です。
<code>storeAdminAuth</code>	<code>true</code> の場合、管理者のパスワードはファイルに書き込まれます。デフォルトは <code>false</code> です。
<code>tempStateFile</code>	インストール中に使用される一時ファイルの場所。  この変数はできるだけ変更しないでください。
<code>masterpassword</code>	キーストア証明書用のパスワード。デフォルト値は、 <code>changeit</code> です。
<code>domainDirectory</code>	デフォルトのドメイン <code>domain1</code> が作成されるディレクトリの場所。

- ほかのコンポーネントの変数コンポーネントを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストを選択します。  
Application Server ソフトウェアをリモートエージェントにインストールします。
- 6 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 7 インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server Domain 管理サーバーを作成する

Domain 管理サーバーは Application Server ドメインを管理します。このサーバーは、個々のクラスタおよび(または)管理対象サーバーのインスタンスを作成する前にインストールする必要があります。Domain 管理サーバーをインストールするときには、初期ドメインを作成して、そのドメインを制御する管理サーバーを作成します。

始める前に Application Server ドメインを作成するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」ドメインの下で、「Manage」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「install: default」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」領域で、インストールする Domain 管理サーバーの変数設定を選択します。
  - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
  - メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。  
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	インストールイメージに Domain 管理サーバーを関連付ける一意の ID。
domainName	作成するドメインの名前。
adminUserId	ドメインまたはクラスタの管理者のユーザー名。
adminPassword	ドメインまたはクラスタの管理者ログイン用のパスワード。
adminHost	Domain 管理サーバーをインストールするホストの名前。
portRangePrefix	HTTP ポート範囲の接頭辞。たとえば、100 という値は HTTP ポート範囲が 10000 から始まることを意味します。デフォルトの値は 100 です。
httpListenerPort	HTTP リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix+00 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTP リスナーポートは 10000 になります。
httpsListenerPort	HTTPS リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix+05 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTPS リスナーポートは 10005 になります。
instancePort	Domain 管理サーバーのデフォルトのポート番号。
iiopListenerPort	Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix+10 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、IIOP リスナーポートは 10010 になります。

<code>iiopsslListenerPort</code>	SSL 対応の Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 15</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、セキュア IIOP リスナーポートは 10015 になります。
<code>iiopsslmutualauthPort</code>	相互認証用の SSL 対応の Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 20</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、相互認証用セキュア IIOP リスナーポートは 10020 になります。
<code>jmsConnectorPort</code>	Java Messaging Service (JMS) コネクタが待機するポート。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 25</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、JMS コネクタポートは 10025 になります。
<code>installDirectory</code>	Application Server をインストールする場所。
<code>masterpassword</code>	キーストア証明書のパスワード。デフォルト値は、 <code>changeit</code> です。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストを選択します。  
Domain 管理サーバーとドメインをリモートエージェントにインストールします。
- 6 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 7 インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server インスタンスを作成する

Application Server インスタンスは1つのドメインで複数実行できます。

始める前に Application Server インスタンスを作成する前に、次の作業を行う必要があります。

- サーバーインスタンスを実行するドメインを作成します。  
ドメインの作成については、24 ページの「Sun Java System App Server ドメインインフラストラクチャーの作成」を参照してください。
- Domain 管理サーバーが動作している必要があります。  
Domain 管理サーバーの手動での起動については、39 ページの「Domain 管理サーバーを起動する」を参照してください。
- ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances」で「Manage」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「install: default」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」領域で、インストールする管理対象サーバーインスタンスの変数設定を選択します。
  - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
  - メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。  
「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
  - 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。  
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	Application Server インスタンスと Install コンポーネントを関連付ける一意の ID。

domainName	当該サーバーインスタンスを格納するドメイン名。
targetName	サーバーの名前。
portRangePrefix	HTTP ポート範囲の接頭辞。たとえば、100 という値は HTTP ポート範囲が 10000 から始まることを意味します。デフォルトの値は 100 です。
httpListenerPort	HTTP リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 00 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTP リスナーポートは 10000 になります。
httpsListenerPort	HTTPS リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 05 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTPS リスナーポートは 10005 になります。
iiopListenerPort	Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 10 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、IIOP リスナーポートは 10010 になります。
iiopsslListenerPort	SSL 有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 15 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、セキュア IIOP リスナーポートは 10015 になります。
iiopsslmutualauthPort	相互認証用の SSL 有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 20 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、相互認証用セキュア IIOP リスナーポートは 10020 になります。



jmsConnectorPort	この変数は使用されていません。
clusterName	当該サーバーインスタンスが属するクラスタの名前。クラスタを指定しない場合、サーバーインスタンスはスタンドアロンサーバーになります。デフォルトでは、クラスタを指定しません。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストを選択します。  
サーバーインスタンスをリモートエージェントにインストールします。
- 6 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 7 インストールする前に詳細なチェック (preflight) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server クラスタを作成する

クラスタは、次のプロパティを持つ 0 以上のサーバーインスタンスの集合です。

- クラスタ内のインスタンスが、すべて同じ設定を参照します。
- クラスタ内のすべてのインスタンスが、J2EE アプリケーションの EAR ファイル、Web モジュールの WAR ファイル、または EJB JAR ファイルなど、配備されたアプリケーションの同じセットを所有します。
- クラスタ内のすべてのインスタンスが同じリソースのセットを所有しており、結果として同じ JNDI 名前空間を構成します。

クラスタを構成するサーバーインスタンスは、同じマシン上で動作しても、異なるマシン上にあってもかまいません。クラスタ内の各クラスタメンバーは、同じバージョンの Application Server を実行する必要があります。

クラスタを使用すると、次のような利点があります。

- サーバーのフェイルオーバー機能によって、アプリケーションの可用性が向上します。
- 複数のサーバー間でアプリケーションをスケーリングすることによって、スループットが向上します。

始める前に クラスタを作成する前に、Domain 管理サーバーを作成する必要があります。

クラスタを作成するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
  - 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」クラスタの下で、「Manage」をクリックします。
  - 3 「Component Procedures」で、「install: default」の横にある「Run action」をクリックします。
  - 4 「Plan Parameters」領域で、インストールするクラスタの変数設定を選択します。
    - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
    - メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
    - 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。
- 次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	クラスタと Install コンポーネントを関連付ける一意の ID。
domainName	当該クラスタを格納するドメイン名。
targetName	クラスタの名前。
portRangePrefix	HTTP ポート範囲の接頭辞。たとえば、100 という値は HTTP ポート範囲が 10000 から始まることを意味します。デフォルトの値は 100 です。
httpListenerPort	HTTP リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 00 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTP リスナーポートは 10000 になります。

httpsListenerPort	HTTPS リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は1から65553までです。1から1024までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix+05です。たとえば、portRangePrefixが100に設定されている場合、HTTPS リスナーポートは10005になります。
iiopListenerPort	Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は1から65553までです。1から1024までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix+10です。たとえば、portRangePrefixが100に設定されている場合、IIOP リスナーポートは10010になります。
iiopsslListenerPort	SSL有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は1から65553までです。1から1024までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix+15です。たとえば、portRangePrefixが100に設定されている場合、セキュア IIOP リスナーポートは10015になります。
iiopsslmutualauthPort	相互認証用の SSL有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は1から65553までです。1から1024までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix+20です。たとえば、portRangePrefixが100に設定されている場合、相互認証用セキュア IIOP リスナーポートは10020になります。
jmsConnectorPort	この変数は使用されていません。
httpLoadBalancer	true の場合、このクラスタに配備されたアプリケーションは負荷均衡されます。デフォルトは false です。
httpsLoadBalancer	true の場合、HTTPS 要求に回答するアプリケーションは負荷均衡されます。httpLoadBalancer が false の場合、この変数による影響はありません。デフォルトは false です。
routeCookie	true の場合、ロードバランサは cookie を経路指定します。httpLoadBalancer が false の場合、この変数による影響はありません。デフォルトは false です。
■	ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストを選択します。  
クラスタをリモートエージェントにインストールします。
- 6 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 7 インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server ソフトウェアをアンインストールする

- 1 左側のコントロールパネルの「Common Tasks」セクションの下にある「AppServer 8.1」リンクをクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 Install Management: Install or Uninstall」リンクをクリックします。
- 3 「uninstall: uninstallAppServer」の隣にある「Run action」をクリックします。

## Sun Java System App Server インスタンスとクラスタの管理

この節では、Sun Java System App Server 管理対象サーバーインスタンスとクラスタを管理する方法について説明します。

### Sun Java System App Server ドメインと Domain 管理 サーバーの管理

次に示すコンポーネントプロシージャは、Sun Java System App Server 8.1 Domain 管理のコンポーネントプロシージャです。

install: default

ターゲットホストにドメインを作成し、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。

<code>uninstall: default</code>	markOnly と同様に、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントおよび依存コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
<code>uninstall: deleteDomain</code>	ターゲットホストからドメインを削除し、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
<code>startCompleteDomain</code>	ドメインおよび依存コンポーネントを起動します。
<code>stopCompleteDomain</code>	ドメインおよび依存コンポーネントを停止します。
<code>verifyDomainServerRunning</code>	ドメインが実行されていることを確認します。
<code>startDomainServer</code>	ドメインおよび管理サーバーを起動します。
<code>stopDomainServer</code>	ドメインおよび管理サーバーを停止します。
<code>listDomains</code>	すべてのドメインを一覧表示します。

## ▼ Sun Java System App Server ドメインと Domain 管理サーバーを削除する

プロビジョニングシステムを通じて Application Server ドメインを削除すると、次の作業が自動的に実行されます。

- Domain 管理サーバーをアンインストールします。
- ドメイン内のすべての管理対象サーバーコンポーネントをアンインストールします。
- ドメイン内のすべてのクラスタコンポーネントをアンインストールします。
- アプリケーションコンポーネントとアプリケーションを削除します。

始める前に Application Server ドメインを削除するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」ドメインの下で、「Manage」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「uninstall: default」の隣にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Current Installations」で、削除するドメインを選択します。
- 5 「Run Selected Installations」ボタンをクリックします。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ 完全なドメインを起動する

完全なドメインを起動すると、そのドメインの Domain 管理サーバー (まだ起動していない場合)、ドメイン内のすべてのクラスタ、およびドメイン内のすべての管理対象サーバーインスタンスが起動します。

始める前に Application Server ドメインを起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」ドメインの下で「Manage」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「startCompleteDomain」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Current Installations」で、起動するドメインを選択します。
- 5 「Run Selected Installations」ボタンをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ 完全なドメインを停止する

完全なドメインを停止すると、特定のドメインについて、動作しているすべてのクラスタと、動作しているすべての管理対象サーバーインスタンスが停止します。

始める前に Application Server ドメインを停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」ドメインの下で、「Manage」をクリックします。

- 3 「**Component Procedures**」で、「stopCompleteDomain」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「**Current Installations**」で、停止するドメインを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

### ▼ **Domain 管理サーバーを起動する**

始める前に Domain 管理サーバーを起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「startDomainServer」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「**Current Installations**」で、起動するドメインを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

### ▼ **Domain 管理サーバーを停止する**

始める前に Domain 管理サーバーを停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。

- 3 「**Component Procedures**」で、「stopDomainServer」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「**Current Installations**」で、停止するドメインを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

### ▼ **Domain 管理サーバーが動作していることを確認する**

Domain 管理サーバーは、特定のインストールで動作していることを確認できます。

始める前に Domain 管理サーバーが動作していることを確認するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「verifyDomainServerRunning」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「**Current Installations**」で、確認するドメインを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

## **Sun Java System App Server クラスタの管理**

Sun Java System App Server 8.1 クラスタ管理のコンポーネントプロシージャーを、次に示します。

install: default      ターゲットホストにクラスタを作成し、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。



install: markOnly	Sun N1 Service Provisioning System に、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。このプロシージャーでは、ほかのコンポーネントとの依存関係は一切作成されません。
uninstall: default	markOnly に似ていますが、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントと依存コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
uninstall: markOnly	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。このプロシージャーでは、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、依存コンポーネントがアンインストール済みであるという記録は行いません。
uninstall: delete	ターゲットホストからクラスタを削除します。Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録し、Sun N1 Service Provisioning System データベースからコンポーネントおよび依存コンポーネントを削除します。
start	クラスタを起動します。クラスタには、1つ以上の管理対象サーバーのコンポーネントが含まれている必要があります。
stop	クラスタを停止します。
verifyClusterRunning	クラスタが実行されていることを確認します。

## ▼ Sun Java System App Server クラスタを削除する

クラスタを削除すると、そのクラスタに関連付けられているすべての管理対象サーバーインスタンスも削除されます。

始める前に クラスタを削除するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」クラスタの下で、「Manage」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「uninstall: default」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Current Installations」で、削除するクラスタを選択します。

- 5 「Run Selected Installations」 ボタンをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

### ▼ Sun Java System App Server クラスタを起動する

始める前に クラスタを起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」 アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」 アクセス権を持っている必要があります。

クラスタはインスタンスを実行していません。クラスタを起動すると、実際にはクラスタに関連付けられている管理対象サーバーのインスタンスを起動していることとなります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「AppServer 8.1」 をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」 クラスタの下で、「Manage」 をクリックします。
- 3 「Component Procedures」 で、「start」 の横にある「Run action」 をクリックします。
- 4 「Current Installations」 で、起動するクラスタを選択します。
- 5 「Run Selected Installations」 ボタンをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

### ▼ Sun Java System App Server クラスタを停止する

始める前に クラスタを停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」 アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」 アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「AppServer 8.1」 をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」 クラスタの下で、「Manage」 をクリックします。
- 3 「Component Procedures」 で、「stop」 の横にある「Run action」 をクリックします。
- 4 「Current Installations」 で、停止するクラスタを選択します。

- 5 「Run Selected Installations」 ボタンをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server クラスタが動作していることを確認する

始める前に クラスタが動作していることを確認するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」 アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」 アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「AppServer 8.1」 をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」 クラスタの下で、「Manage」 をクリックします。
- 3 「Component Procedures」 で、「verifyClusterRunning」 の横にある「Run action」 をクリックします。
- 4 「Current Installations」 で、確認するクラスタを選択します。
- 5 「Run Selected Installations」 ボタンをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## Sun Java System App Server インスタンスの管理

Sun Java System App Server 8.1 管理対象サーバーのインスタンスの管理のコンポーネントプロシージャラーを、次に示します

install: default	ターゲットホストにサーバーインスタンスを作成し、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、このコンポーネントがインストール済みであることを記録します。また、依存関係を作成します。
install: markOnly	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。依存関係は一切作成しません。
uninstall: default	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントおよび依存コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。

uninstall: markOnly	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。このプロシージャでは、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、依存コンポーネントがアンインストール済みであるという記録は行いません。
uninstall: delete	ターゲットホストからサーバーインスタンスを削除します。Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録し、Sun N1 Service Provisioning System データベースから、コンポーネントおよび依存コンポーネントを削除します。
start	サーバーインスタンスを起動します。
stop	サーバーインスタンスを停止します。
verifyServerRunning	サーバーが実行されていることを確認します。

## ▼ Sun Java System App Server インスタンスを削除する

始める前に サーバーインスタンスを削除するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances」で「Manage」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「uninstall: default」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Current Installations」で、削除するサーバーインスタンスを選択します。
- 5 「Run Selected Installations」ボタンをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server インスタンスを起動する

始める前に サーバーインスタンスを起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」で「**Manage**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「**start**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 4 「**Current Installations**」で、起動するサーバーインスタンスを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

### ▼ Sun Java System App Server インスタンスを停止する

始める前に サーバーインスタンスを停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「**Run Component Procedures**」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「**Allow on Host Set**」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」で「**Manage**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「**stop**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 4 「**Current Installations**」で、停止するサーバーインスタンスを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

### ▼ Sun Java System App Server インスタンスが動作していることを確認する

始める前に サーバーインスタンスが動作していることを確認するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「**Run Component Procedures**」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「**Allow on Host Set**」アクセス権を持っている必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。

- 2 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure**→**SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」で「**Manage**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「**verifyServerRunning**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 4 「**Current Installations**」で、確認するサーバーインスタンスを選択します。
- 5 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

## Sun Java System App Server アプリケーションの取得と管理

この節では、Sun Java System App Server アプリケーションを管理する方法について説明します。

Sun Java System App Server プラグインは、次の2種類のアプリケーションの配備をサポートしています。

- エンタープライズアプリケーション (EAR)
- Web アプリケーション (WAR)

アプリケーションの管理には、次の2段階の手順があります。

1. Sun N1 Service Provisioning System マスターサーバーにアプリケーションを取得させます。
2. アプリケーションをインストールおよびアンインストールします。

### ▼ Sun Java System App Server エンタープライズアプリケーションを取得する

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS Application Tasks**→**Enterprise Applications (EARs)**」で、「**Create New**」をクリックします。
- 3 このコンポーネントのコンポーネントディレクトリを入力します。com/sun/sjsas81 名前空間は有効ではありません。

- 4 このコンポーネントのラベルを入力します。
- 5 このコンポーネントの説明を入力します。
- 6 **EAR** ファイルを格納するホストを入力します。  
リストからホストを選択するには、「Select From List」をクリックします。
- 7 **EAR** の場所を見つけます。
  - a. **EAR** へのパスが判明している場合は、「com.sun.sjsas81#EntappCT path」に入力します。
  - b. 選択したホストをブラウズするには、そのディレクトリを選択して、「Open Highlighted Item」をクリックします。
- 8 **EAR** を選択して、「Open Highlighted Item」をクリックします。
- 9 「Check In Selected Item」をクリックします。
- 10 チェックインページの情報を確認して、「Continue to Check-in」をクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server Web アプリケーション を取得する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS Application Tasks→Web Applications (WARs)」で、「Create New」をクリックします。
- 3 このコンポーネントのコンポーネントディレクトリを入力します。com/sun/sjsas81 名前空間は有効ではありません。
- 4 このコンポーネントのラベルを入力します。
- 5 このコンポーネントの説明を入力します。
- 6 **WAR** ファイルを格納するホストを入力します。  
リストからホストを選択するには、「Select From List」をクリックします。

- 7 WAR の場所を見つけます。
  - a. WAR へのパスが判明している場合は、「ccom.sun.sjsas81#WebappCT path」に入力します。
  - b. 選択したホストをブラウズするには、そのディレクトリを選択して、「Open Highlighted Item」をクリックします。
- 8 WAR を選択して、「Open Highlighted Item」をクリックします。
- 9 「Check In Selected Item」をクリックします。
- 10 チェックインページの情報を確認して、「Continue to Check-in」をクリックします。

## Sun Java System App Server エンタープライズアプリケーションの管理

Sun Java System App Server EAR 管理のコンポーネントプロシージャーを、次に示します。

install: default	ターゲットホストに EAR を配備し、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します
install: markOnly	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。
uninstall: default	ターゲットホストの EAR の配備を解除し、Sun N1 Service Provisioning System データベースにコンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
uninstall: markOnly	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。

### ▼ Sun Java System App Server Enterprise Application をインストールする

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS Application Tasks→Enterprise Applications (EARs)」で、「View All」をクリックします。
- 3 インストールする EAR の名前をクリックします。



- 4 「**Component Procedures**」で、「install: default」の横にある「Run action」をクリックします。
- 5 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **EAR** の変数設定を選択します。
  - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
  - メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。  
「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
    - 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。  
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。
 

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	EAR を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該 EAR をインストールするドメイン名。
targetName	EAR を配備するクラスタまたはサーバーインスタンスの名前。
    - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。  
変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。
- 6 ターゲットホストを選択します。
- 7 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 8 インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 9 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server Enterprise Application をアンインストールする

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS Application Tasks→Enterprise Applications (EARs)」で、「View All」をクリックします。

- 3 アンインストールする **EAR** の名前をクリックします。
- 4 「**Component Procedures**」で、「**uninstall: default**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 5 **EAR** を削除するインストールを選択します。
- 6 「**Run Selected Installations**」 ボタンをクリックします。
- 7 「**Run Plan (includes preflight)**」 ボタンをクリックします。

## Sun Java System App Server Web アプリケーションの管理

Sun Java System App Server WAR 管理のコンポーネントプロシージャラーを、次に示します。

<code>install: default</code>	ターゲットホストに WAR を配備し、Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。
<code>install: markOnly</code>	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。
<code>uninstall: default</code>	ターゲットホストの WAR の配備を解除し、Sun N1 Service Provisioning System データベースにコンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
<code>uninstall: markOnly</code>	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。

### ▼ Sun Java System App Server Web Application をインストールする

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS Application Tasks→Web Applications (WARs)**」で、「**View All**」をクリックします。
- 3 インストールする **WAR** の名前をクリックします。
- 4 「**Component Procedures**」で、「**install: default**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 5 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **WAR** の変数設定を選択します。

- 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
  - メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
  - 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。
- 次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	WAR を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該 WAR をインストールするドメイン名。
targetName	WAR を配備するクラスタまたはサーバーインスタンスの名前。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 6 ターゲットホストを選択します。
- 7 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 8 「Plan Variables」で、Web アプリケーションのコンテキストルートを設定します。
- 9 インストールする前に詳細なチェック (preflight) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 10 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ Sun Java System App Server Web Application をアンインストールする

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS Application Tasks→Web Applications (WARs)」で、「View All」をクリックします。
- 3 アンインストールする WAR の名前をクリックします。

- 4 「**Component Procedures**」で、「`uninstall: default`」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 5 **WAR**を削除するインストールを選択します。
- 6 「**Run Selected Installations**」ボタンをクリックします。
- 7 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

## Sun Java System App Server リソースの管理

この節では、次に示す Sun Java System App Server リソース (JMS リソース、JDBC リソース、スレッドプール) を管理する方法について説明します。

### Java Messaging Service (JMS) リソースの管理

Sun Java System App Server 8.1 JMS リソース管理のコンポーネントプロシーチャーを、次に示します。

<code>install: default</code>	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。
<code>uninstall: default</code>	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
<code>createJMSResource</code>	ターゲットホストに JMS リソースを作成します。
<code>deleteJMSResource</code>	ターゲットホストから JMS リソースを削除します。
<code>listJMSResource</code>	JMS リソースを一覧表示します。

#### ▼ JMS リソースをホストにインストールする

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JMS Resource**」で、「**Manage JMS Resources**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「`install: default`」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 4 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **JMS Resource** の変数設定を選択します。

- 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
- メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。  
「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
  - 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。  
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。
 

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	JMS Resource を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該 JMS Resource を格納するドメイン名。
  - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。  
変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストを選択します。
- 6 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 7 インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ JMS リソースを作成する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JMS Resource」で、「Manage JMS Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「createJMSResource」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 JMS リソースを作成するインストールを選択します。

- 5 「Plan Variables」で、
  - a. リソースタイプを選択します。リソースタイプは次の1つです。
    - Topic
    - Queue
    - ConnectionFactory
    - TopicConnectionFactory
    - QueueConnectionFactory
  - b. リソースの JNDI 名を入力します。
  - c. リソースを作成するターゲットクラスまたはサーバーの名前を入力します。
  - d. (任意) リソースの説明を入力します。
  - e. JMS プロパティをコロン(:)で区切って入力します。  
有効なプロパティ名は次のとおりです。
    - ClientId
    - AddressList
    - MessageServiceAddressList
    - UserName
    - Password
    - ReconnectEnabled
    - ReconnectAttempts
    - ReconnectInterval
    - AddressListBehavior
    - AddressListIterations
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ JMS リソースを削除する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JMS Resource」で、「Manage JMS Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「deleteJMSResource」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 JMS リソースを削除するインストールを選択します。

- 5 「Plan Variables」で、
  - a. 削除するリソースの JNDI 名を入力します。
  - b. 削除するリソースのターゲット名を入力します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## Java Database Connectivity (JDBC) リソースの管理

Sun Java System App Server 8.1 JDBC リソースおよび接続プール管理のコンポーネントプロシージャは、次のとおりです。

install: default	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。
uninstall: default	Sun N1 Service Provisioning System に、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
createJDBCResource	ターゲットホストに、JDBC リソースを作成します。
deleteJDBCResource	ターゲットホストから、JDBC リソースを削除します。
listJDBCResources	JDBC リソースを一覧表示します。
createJDBCConnectionPool	ターゲットホストに、JDBC 接続プールを作成します。
deleteJDBCConnectionPool	ターゲットホストから、JDBC 接続プールを削除します。
listJDBCConnectionPools	JDBC 接続プールを一覧表示します。

### ▼ JDBC リソースをホストにインストールする

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「install: default」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」領域で、インストールする JDBC Resource の変数設定を選択します。
  - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
  - メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。  
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。
- |                   |                                              |
|-------------------|----------------------------------------------|
| 変数セット名            | 必須。新たに作成する変数セットの名前。                          |
| installIdentifier | JDBC Resource を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。 |
| domainName        | 当該 JDBC Resource を格納するドメイン名。                 |
- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。  
変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストを選択します。
- 6 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 7 インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ JDBC リソースを作成する

始める前に JDBC リソースを作成する前に、JDBC 接続プールを作成する必要があります。

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「createJDBCResource」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 JDBC リソースを作成するインストールを選択します。
- 5 「Plan Variables」で、
  - a. 「Connection Pool」の名前を設定します。



- b. リソースの JNDI 名を入力します。
  - c. リソースを作成するターゲットクラスまたはサーバーの名前を入力します。
  - d. (任意) リソースの説明を入力します。
  - e. JDBC プロパティをコロン(:)で区切って入力します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ JDBC リソースを削除する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「deleteJDBCResource」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 JDBC リソースを削除するインストールを選択します。
- 5 「Plan Variables」で、
  - a. 削除するリソースの JNDI 名を入力します。
  - b. 削除するリソースのターゲットクラスまたはサーバーインスタンスの名前を入力します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ JDBC リソースを一覧表示する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「listJDBCResources」の横にある「Run action」をクリックします。

- 4 JDBC リソースを一覧表示するインストールを選択します。
- 5 「Plan Variables」の下で、JDBC リソースを一覧表示するターゲットのクラスタ名またはサーバーインスタンス名を入力します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ JDBC 接続プールを作成する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「createJDBCConnectionPool」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 接続プールを作成するインストールを選択します。
- 5 「Plan Variables」で、
  - a. 「Connection Pool」の名前を設定します。
  - b. (任意)接続プールの説明を入力します。
  - c. 接続プールの JDBC データソースリソースマネージャーを入力します。
  - d. データソースクラス実装のインタフェースを入力します。  
有効なエントリは次のとおりです。
    - DataSource
    - ConnectionPoolDataSource
    - XADataSource
  - e. プールが作成する接続の最小数を入力します。
  - f. プールが保守する接続の最大数を入力します。
  - g. タイムアウトタイマーが満了したときに削除する接続の数を入力します。
  - h. プール内で接続がアイドル状態になることができる最大時間(秒)を入力します。

- i. 接続プールのトランザクション遮断レベルを入力します。  
有効なエントリは次のとおりです。
    - read-uncommitted
    - read-committed
    - repeatable-read
    - serializableエントリが空白の場合、JDBC ドライバのデフォルトの遮断レベルが使用されます。
  - j. 接続をアプリケーションに割り当てる前に、その接続を検証するかどうかを指定します。有効なエントリは true または false です。
  - k. JDBC ドライバの属性名と値のペアを入力します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ JDBC 接続プールを削除する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「deleteJDBCConnectionPool」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 JDBC 接続プールを削除するインストールを選択します。
- 5 「Plan Variables」で、
  - a. 削除する接続プールの名前を入力します。
  - b. 接続プールに関連するすべてのコネクタリソースも削除するかどうかを指定します。有効なエントリは true または false です。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ JDBC 接続プールを一覧表示する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。

- 2 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JDBC Resource**」で、「**Manage JDBC Resources**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「**listJDBCConnectionPools**」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 4 **JDBC 接続プールを一覧表示するインストール**を選択します。
- 5 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

## スレッドプールリソースの管理

Sun Java System App Server 8.1 スレッドプール管理のコンポーネントプロシージャを、次に示します。

<code>install: default</code>	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがインストール済みであることを記録します。
<code>uninstall: default</code>	Sun N1 Service Provisioning System データベースに、コンポーネントがアンインストール済みであることを記録します。
<code>createThreadpool</code>	ターゲットホストにスレッドプールリソースを作成します。
<code>deleteThreadpool</code>	ターゲットホストからスレッドプールリソースを削除します。
<code>listThreadpools</code>	スレッドプールリソースを一覧表示します。

### ▼ スレッドプールリソースをホストにインストールする

- 1 ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
- 2 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 Threadpool Resource**」で、「**Manage Threadpool Resources**」をクリックします。
- 3 「**Component Procedures**」で、「`install: default`」の横にある「**Run action**」をクリックします。
- 4 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **Thread Pool Resource** の変数設定を選択します。
  - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
  - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。  
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	スレッドプールリソースを Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該スレッドプールリソースを格納するドメイン名。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。  
変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストを選択します。
- 6 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
- 7 インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
- 8 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

## ▼ スレッドプールリソースを作成する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 Threadpool Resource」で、「Manage Threadpool Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「createThreadpool」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 スレッドプールを作成するインストールを選択します。
- 5 「Plan Variables」で、
  - a. スレッドプール ID を入力します。
  - b. 要求を処理するスレッドプール内のスレッドの最大数を入力します。
  - c. 要求を処理するスレッドプール内のスレッドの最小数を入力します。

- d. タイムアウト値(秒)を入力します。このあと、アイドルスレッドはプールに戻ります。
- e. スレッドプールが処理する作業用待ち行列の合計数を入力します。
- f. スレッドプールを作成するクラスタまたはサービスインスタンスの名前を入力します。

6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ スレッドプールリソースを削除する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 Threadpool Resource」で、「Manage Threadpool Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「deleteThreadpool」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 スレッドプールを削除するインストールを選択します。
- 5 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## ▼ ターゲット上のスレッドプールを一覧表示する

- 1 ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「AppServer 8.1」をクリックします。
- 2 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 Threadpool Resource」で、「Manage Threadpool Resources」をクリックします。
- 3 「Component Procedures」で、「listThreadpools」の横にある「Run action」をクリックします。
- 4 スレッドプールを一覧表示するインストールを選択します。
- 5 「Plan Variables」で、スレッドプールを一覧表示するターゲットクラスタまたはサーバーインスタンスの名前を入力します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

## 障害追跡

この節では、Sun Java System Application Server Plug-In 3.0 の使用中に発生する可能性がある一般的な問題について説明します。

### タスクの実行時にエラーが発生した場合

タスクの実行時にエラーが発生した場合、次のような一般的な間違いをしていないことを再度確認してください。

#### 変数の値を確認する

プランが使用する変数セットを作成している場合、間違っただ変数値を入力していることがよくあります。たとえば、ドメイン名の代わりにクラスタ名を間違っただ入力しているなどです。

#### ポートが利用できない

変数セットでポートを入力する際に、ターゲットホストでそのポートが利用可能であることを確認します。

#### アプリケーションのインストール時に起きるコンポーネントディレクトリ名前空間の問題

ユーザー独自のアプリケーションを使用する場合、`com.sun.sjsas81` 名前空間は無効です。アプリケーションのコンポーネントディレクトリを入力するとき、デフォルトでは `com.sun.sjsas81` が選択されているため、必ず、名前空間を変更してください。

#### インストール時の問題

プラグインコンポーネントをインストールしようとしたときにエラーが発生した場合、`sourceImage` 変数が指すディレクトリに Sun Java System App Server の有効なインストールイメージが格納されていることを確認してください。

#### プラグインの削除の問題

プラグインを削除する前に、非表示のコンポーネントもアンインストールまたは削除することに注意する必要があります。プラグインの削除に関する詳細は、プラグインをインポートすると得られる `ReadMe.txt` ファイルを参照してください。





# 索引

---

## D

Domain 管理サーバー  
確認, 40  
管理, 36-40  
起動, 39  
削除, 37-38  
作成, 28-30  
停止, 39-40

## E

EAR, 48-49, 49-50

## J

JAR ファイル, 17  
Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照  
JDBC, 55-60  
JDBC 接続プール, 「接続プール」を参照  
JDBC リソース  
一覧表示, 57-58  
管理, 55-60  
削除, 57  
作成, 56-57  
JMS リソース, 52-55  
インストール, 52-53  
削除, 54-55  
作成, 53-54

## W

WAR, 47-48, 51-52  
web アプリケーション, 51-52  
Web アプリケーション  
Web, 47-48, 50-51

## あ

アップグレード関連の注意事項, 21  
アプリケーション  
Web, 47-48, 50-51  
web, 51-52  
アンインストール, 49-50, 51-52  
インストール, 48-49, 50-51  
エンタープライズ, 48-49, 49-50  
取得, 47-48  
アンインストール  
アプリケーション, 49-50, 51-52

## い

一覧表示  
JDBC リソース, 57-58  
スレッドプール, 62  
接続プール, 59-60  
インストール  
JMS リソース, 52-53  
Sun Java Enterprise System Application Server, 25-28  
アプリケーション, 48-49, 50-51  
スレッドプール, 60-61

## え

エラー, 63  
エンタープライズアプリケーション, 48-49, 49-50

## か

### 確認

Domain 管理サーバー, 40  
クラスタ, 43  
サーバーインスタンス, 45-46

### 管理

Domain 管理サーバー, 36-40  
JDBC リソース, 55-60  
クラスタ, 36-46  
サーバーインスタンス, 36-46  
スレッドプール, 60-62  
ドメイン, 36-40  
リソース, 52-62

## き

### 起動

Domain 管理サーバー, 39  
クラスタ, 42  
サーバーインスタンス, 44-45  
ドメイン, 38

## く

### クラスタ

確認, 43  
管理, 36-46  
起動, 42  
削除, 41-42  
作成, 33-36  
停止, 42-43

## さ

### サーバーインスタンス

確認, 45-46  
管理, 36-46

起動, 44-45

削除, 44

作成, 31-33

停止, 45

サーバー要件, 12

### 削除

Domain 管理サーバー, 37-38

JDBC リソース, 57

JMS リソース, 54-55

クラスタ, 41-42

サーバーインスタンス, 44

スレッドプール, 62

接続プール, 59

ドメイン, 37-38

### 作成

Domain 管理サーバー, 28-30

JDBC リソース, 56-57

JMS リソース, 53-54

クラスタ, 33-36

サーバーインスタンス, 31-33

スレッドプール, 61-62

接続プール, 58-59

## し

取得, アプリケーション, 47-48

障害追跡, 63

## す

### スレッドプール

一覧表示, 62

インストール, 60-61

管理, 60-62

削除, 62

作成, 61-62

## せ

### 接続プール

一覧表示, 59-60

削除, 59

作成, 58-59

## て

## 停止

- Domain 管理サーバー, 39-40
- クラスタ, 42-43
- サーバーインスタンス, 45

## と

## ドメイン

- 管理, 36-40
- 起動, 38
- 削除, 37-38

## ふ

## プラグイン

- インポート, 19-20
- 構成部品, 11
- 要件, 12
- プラグインのインポート, 19-20
- プラグインファイル
  - インポート, 19-20
  - 場所, 17

## よ

## 要件, 12

## り

## リソース

- JMS, 52-55
- 管理, 52-62

